

IV 調査結果の詳細

IV 調査結果の詳細

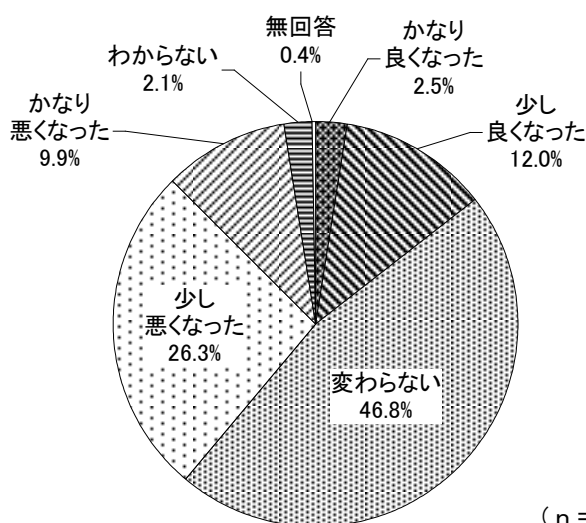
1 暮らしの変化について

(1) 暮らしの変化

問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。

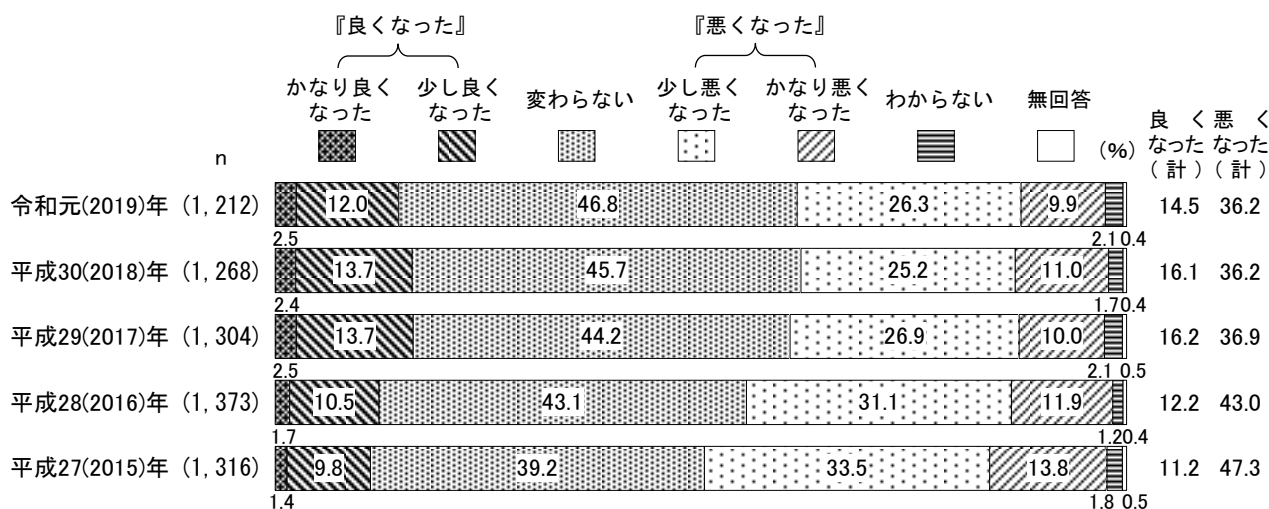
[n=1,212]

1	かなり良くなった	2.5%	4	少し悪くなった	26.3%
2	少し良くなった	12.0%	5	かなり悪くなった	9.9%
3	変わらない	46.8%	6	わからない	2.1%
				(無回答)	0.4%



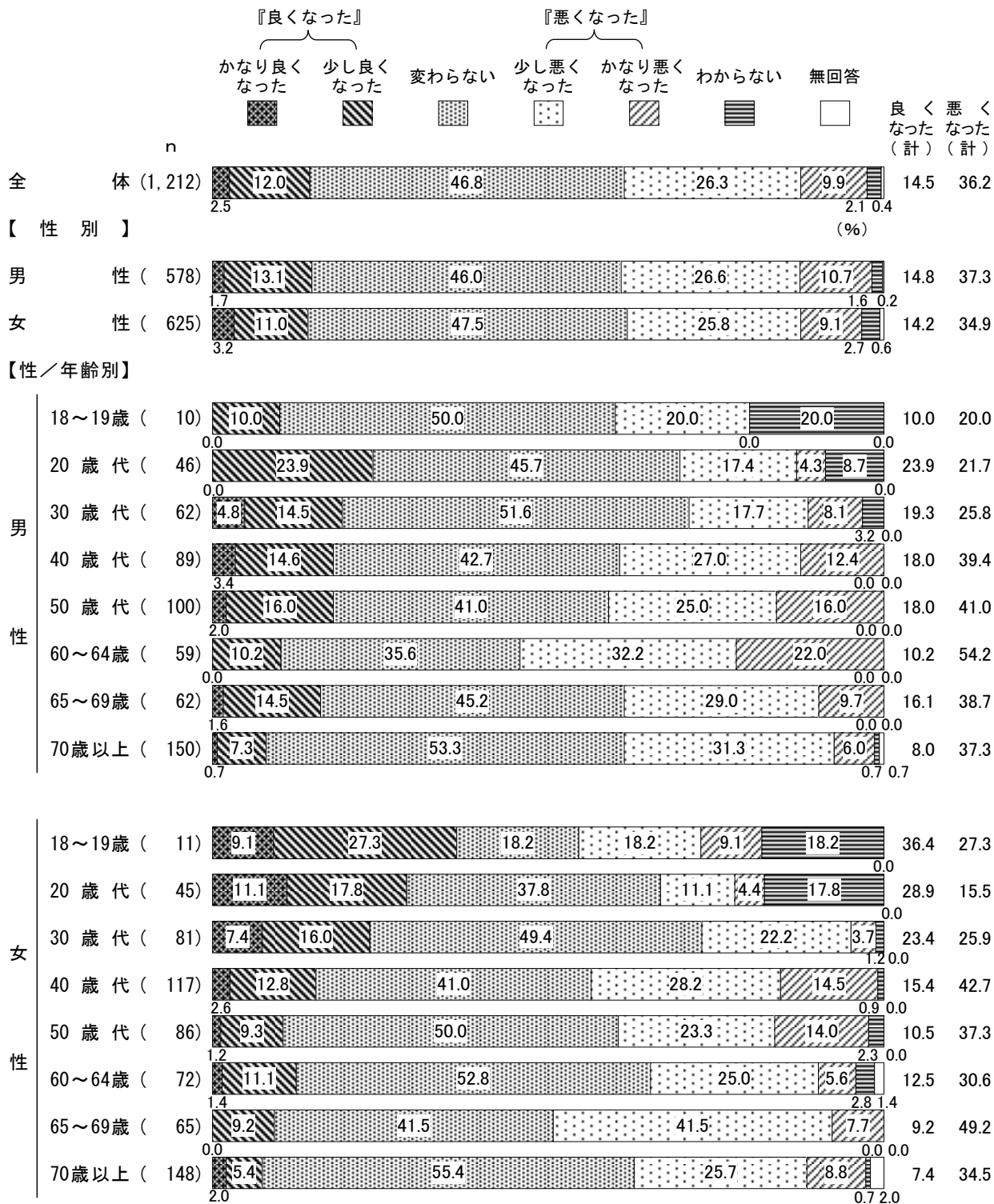
(n=1,212)

全体でみると、「かなり良くなった」(2.5%)と「少し良くなった」(12.0%)の2つを合わせた『良くなった』(14.5%)は1割半ばとなっている。一方、「少し悪くなった」(26.3%)と「かなり悪くなった」(9.9%)の2つを合わせた『悪くなった』(36.2%)は3割半ばとなっている。また、「変わらない」(46.8%)は5割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年以降ほぼ同じ傾向になっているが、平成28(2016)年と比較すると、『良くなった』が2.3ポイント増加し、『悪くなった』が6.8ポイント減少している。

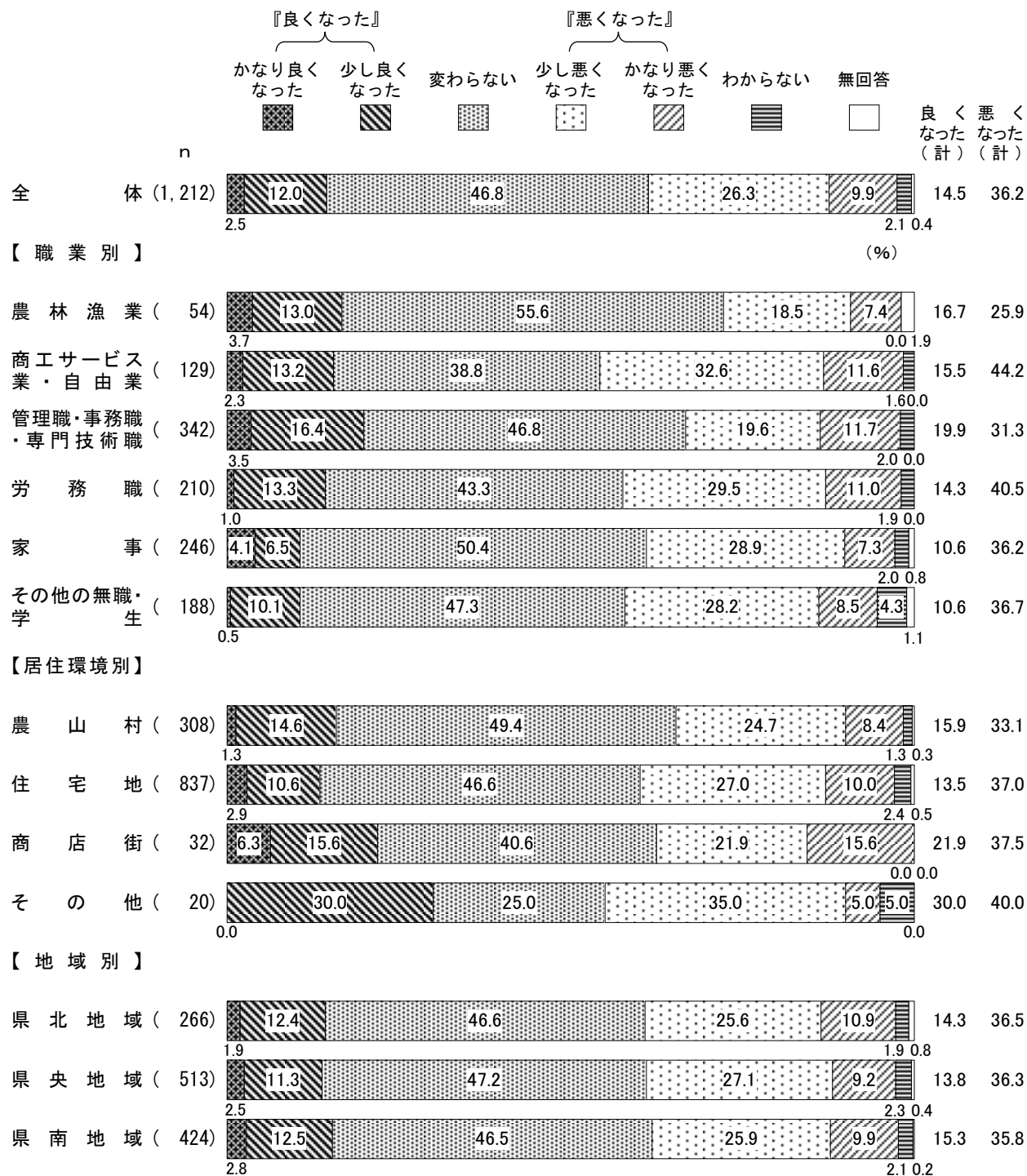
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『悪くなった』では〈男性〉(37.3%)が〈女性〉(34.9%)より2.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『良くなった』では〈女性20歳代〉が28.9%、〈男性20歳代〉が23.9%、〈女性30歳代〉が23.4%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性60~64歳〉が54.2%、〈女性65~69歳〉が49.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『良くなった』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が19.9%となっている。一方、『悪くなった』では〈商工サービス業・自由業〉が44.2%と高くなっている。

居住環境別でみると、『良くなった』では〈商店街〉が21.9%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

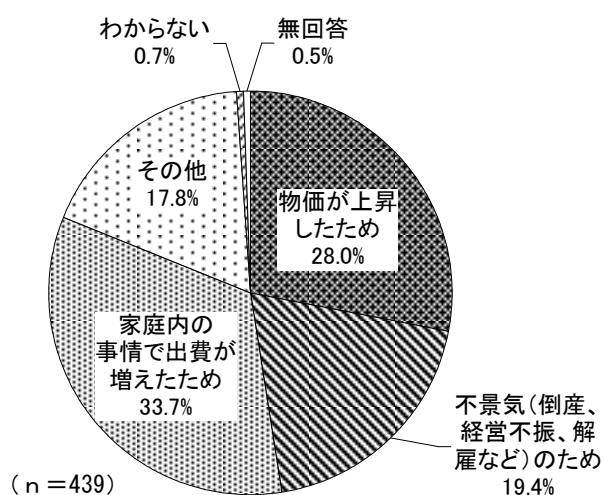
(1-1) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

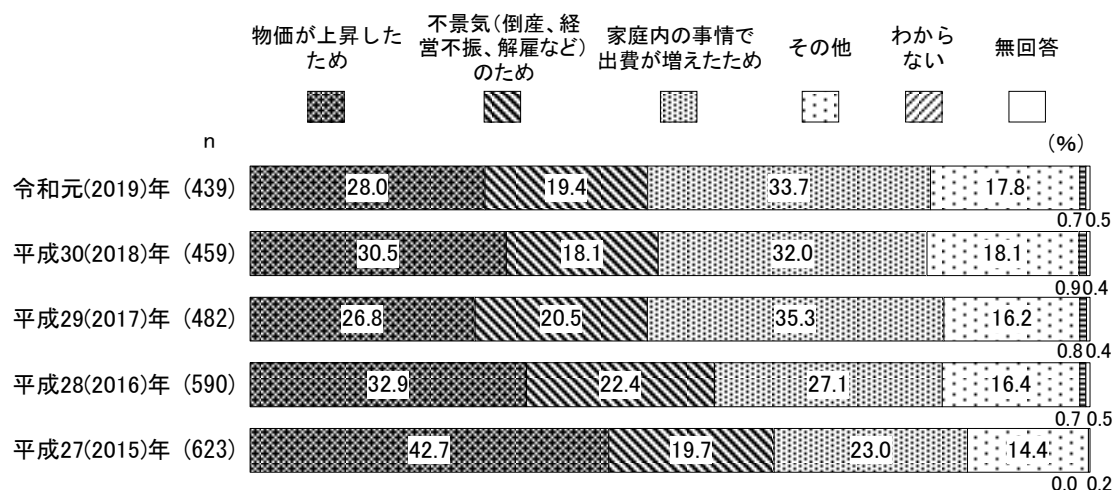
問1-1 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。

[n=439]

1 物価が上昇したため	28.0%	4 その他	17.8%
2 不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため	19.4%	5 わからない	0.7%
3 家庭内の事情で出費が増えたため	33.7%	(無回答)	0.5%

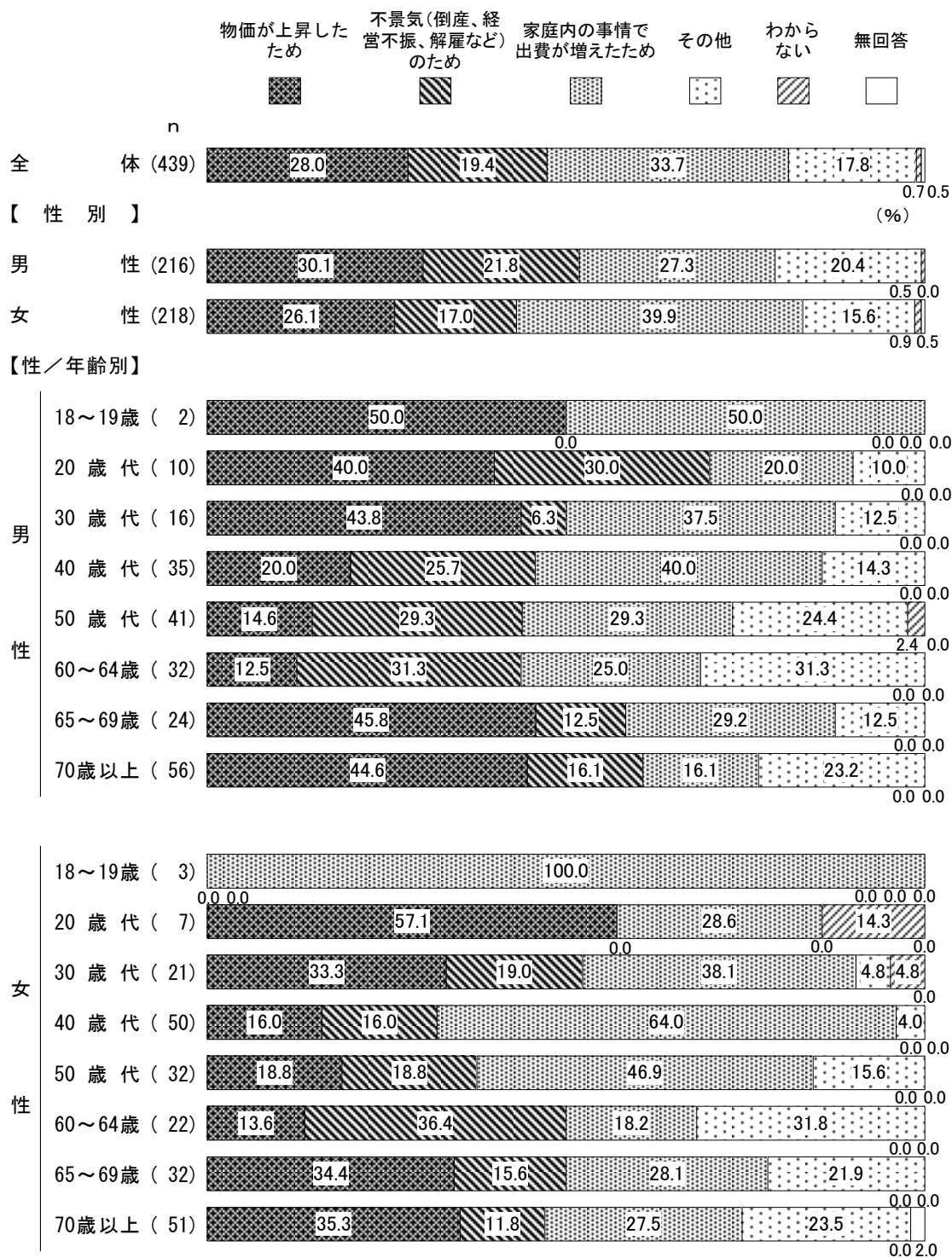


全体でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」(33.7%)が3割を超えて最も高く、次いで「物価が上昇したため」(28.0%)、「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」(19.4%)の順となっている。



過去の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が平成30(2018)年より2.5ポイント減少している。

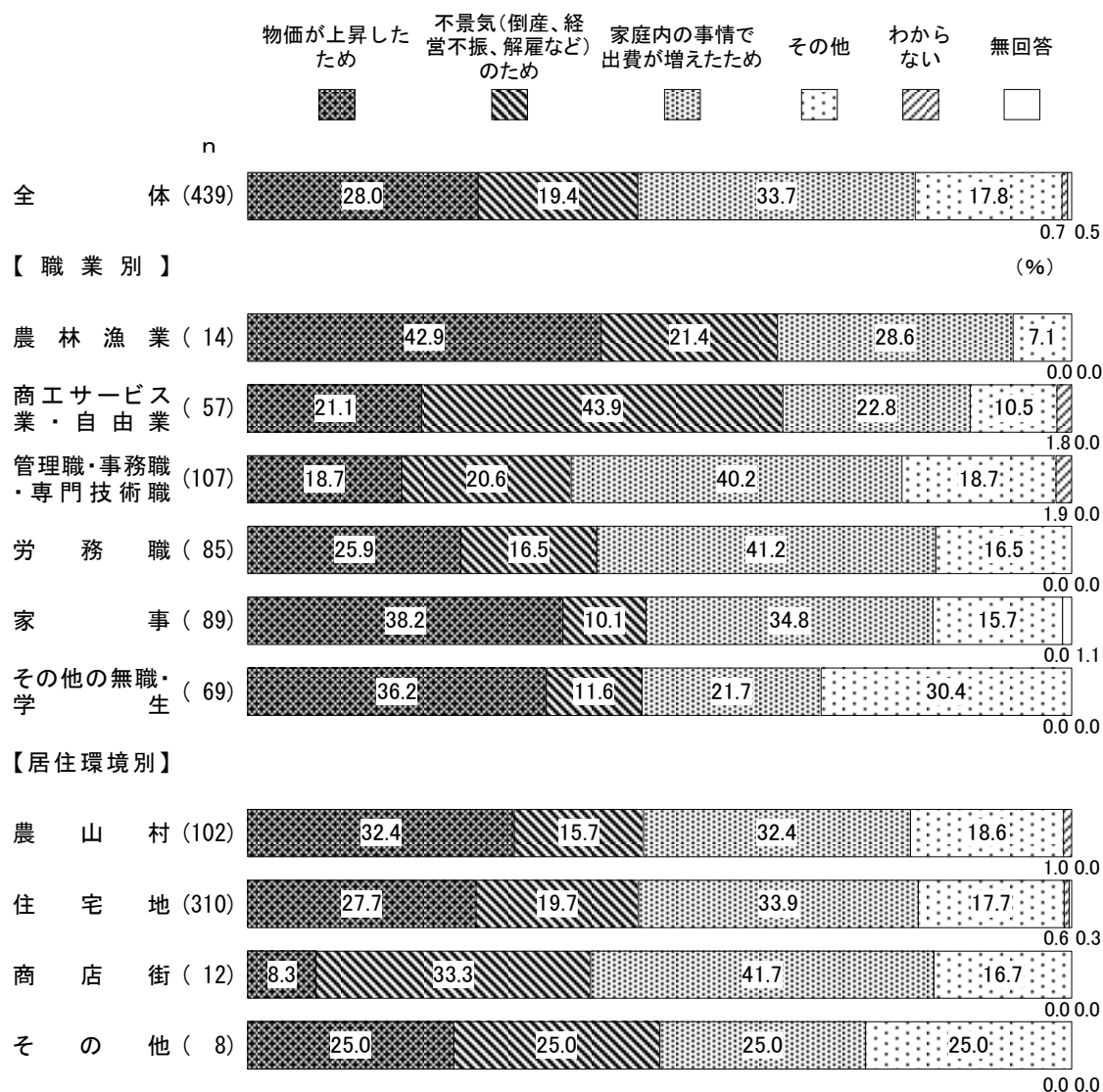
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性〉(39.9%)が〈男性〉(27.3%)より12.6ポイント高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性〉(21.8%)が〈女性〉(17.0%)より4.8ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性〉(30.1%)が〈女性〉(26.1%)より4.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈女性40歳代〉が64.0%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈男性70歳以上〉が44.6%と高くなっている。「不景気(倒産、経営不振、解雇など)のため」では〈男性60~64歳〉が31.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]



職業別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」では〈労務職〉が41.2%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が40.2%と高くなっている。「物価が上昇したため」では〈家事〉が38.2%と高くなっている。「不景気（倒産、経営不振、解雇など）のため」では〈商工サービス業・自由業〉が43.9%と高くなっている。

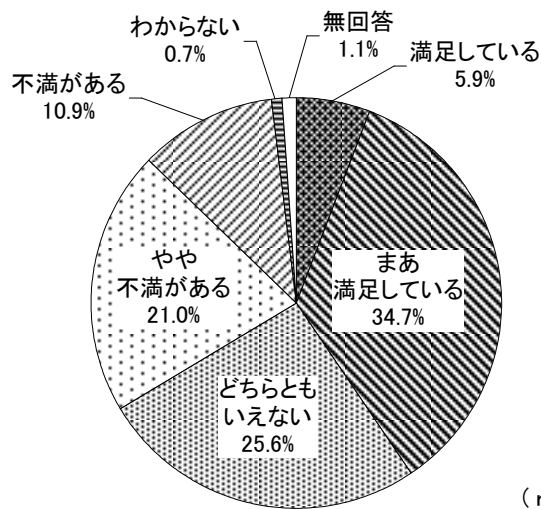
居住環境別でみると、「物価が上昇したため」では〈農山村〉が32.4%と高くなっている。

(2) 暮らしの満足度

問2 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。

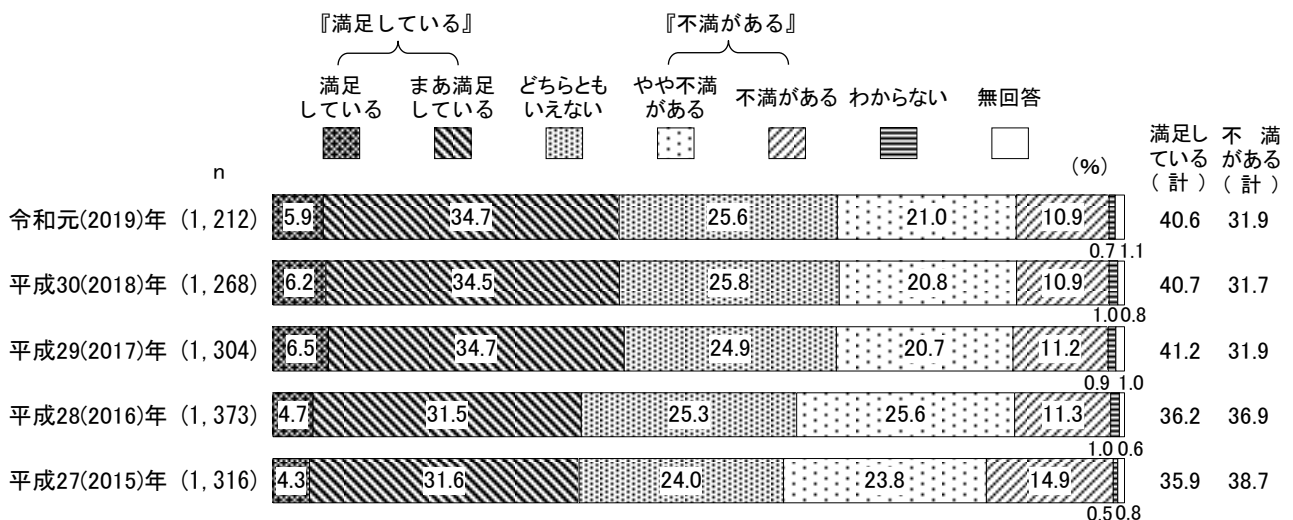
[n=1,212]

1 満足している	5.9%	4 やや不満がある	21.0%
2 まあ満足している	34.7	5 不満がある	10.9
3 どちらともいえない	25.6	6 わからない	0.7
		(無回答)	1.1



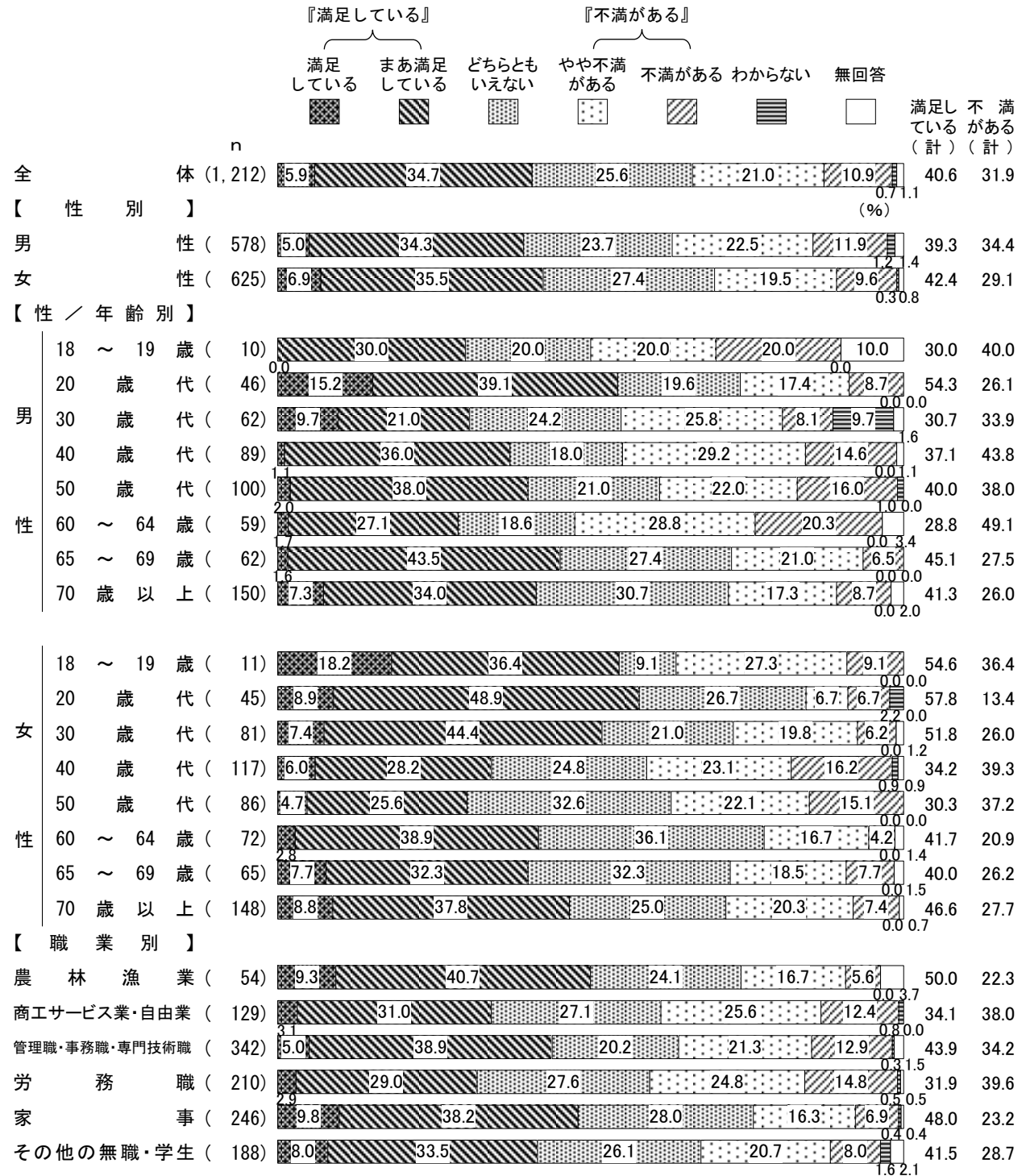
(n=1,212)

全体でみると、「満足している」(5.9%)と「まあ満足している」(34.7%)の2つを合わせた『満足している』(40.6%)はほぼ4割となっている。一方、「やや不満がある」(21.0%)と「不満がある」(10.9%)の2つを合わせた『不満がある』(31.9%)は3割を超えている。また、「どちらともいえない」(25.6%)は2割半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、平成29(2017)年以降ほぼ同じ傾向になっているが、平成28(2016)年と比較すると、『満足している』が4.4ポイント増加し、『不満がある』が5.0ポイント減少している。

【性別・性／年齢別・職業別】

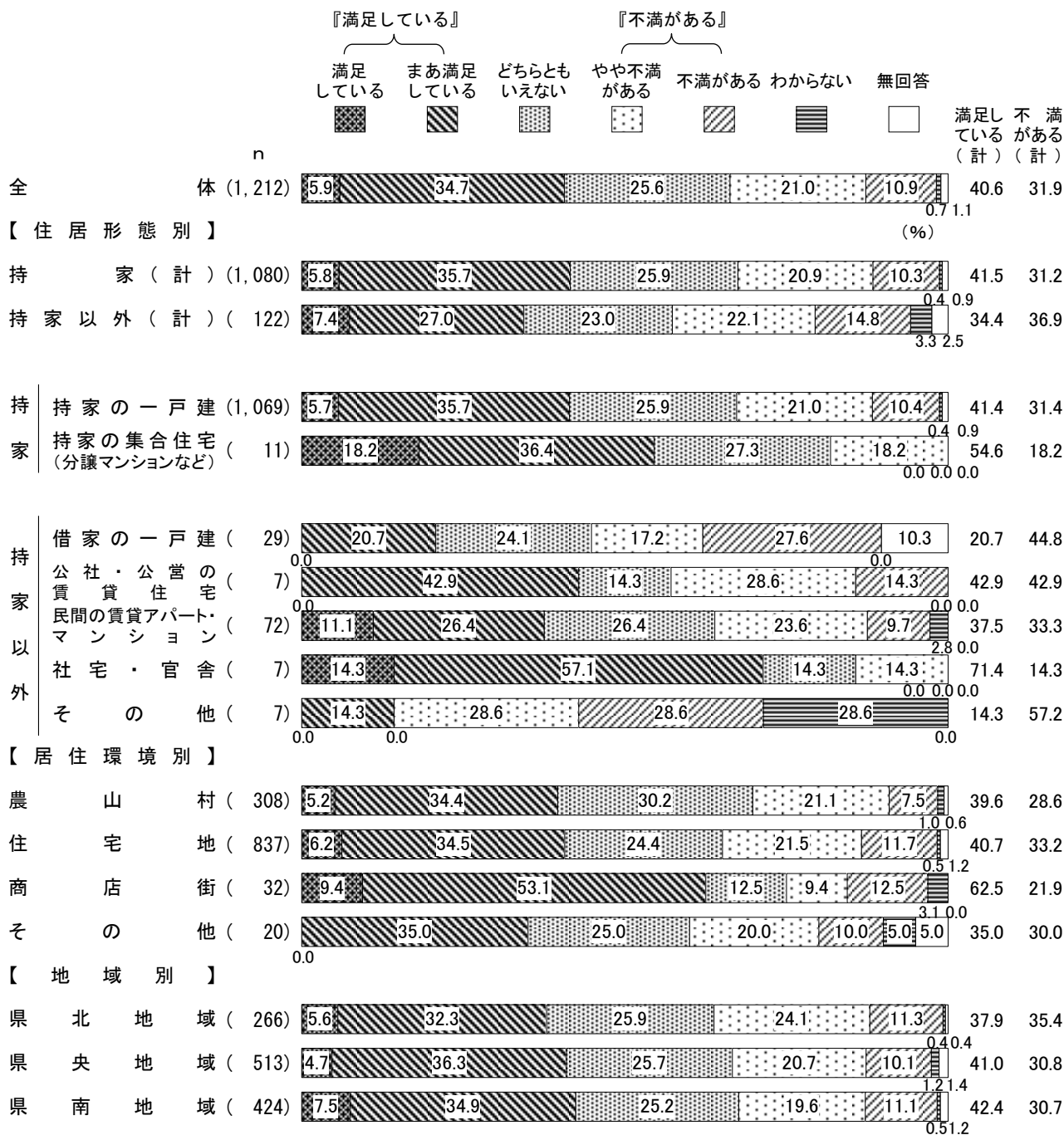


性別でみると、『満足している』では〈女性〉(42.4%)が〈男性〉(39.3%)より3.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が57.8%、〈男性20歳代〉が54.3%、〈女性30歳代〉が51.8%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性60～64歳〉が49.1%、〈男性40歳代〉が43.8%と高くなっている。

職業別でみると、『満足している』では〈農林漁業〉が50.0%、〈家事〉が48.0%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈労務職〉が39.6%、〈商工サービス業・自由業〉が38.0%と高くなっている。

〔住居形態別・居住環境別・地域別〕



住居形態別で見ると、『満足している』では〈持家（計）〉（41.5%）が〈持家以外（計）〉（34.4%）より7.1ポイント高くなっている。

居住環境別で見ると、『満足している』では〈商店街〉が62.5%と高くなっている。

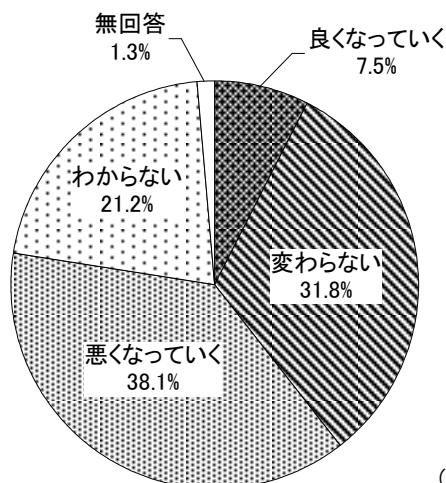
地域別で見ると、『満足している』では〈県南地域〉が42.4%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈県北地域〉が35.4%と高くなっている。

(3) 今後の暮らしの状況

問3 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。

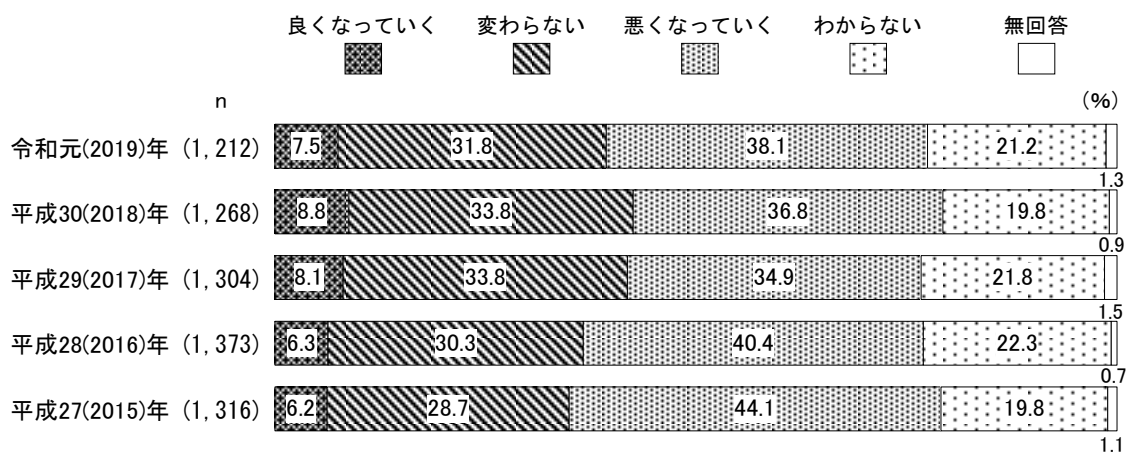
[n=1,212]

1 良くなっていく	7.5%	3 悪くなっていく	38.1%
2 変わらない	31.8	4 わからない	21.2
		(無回答)	1.3



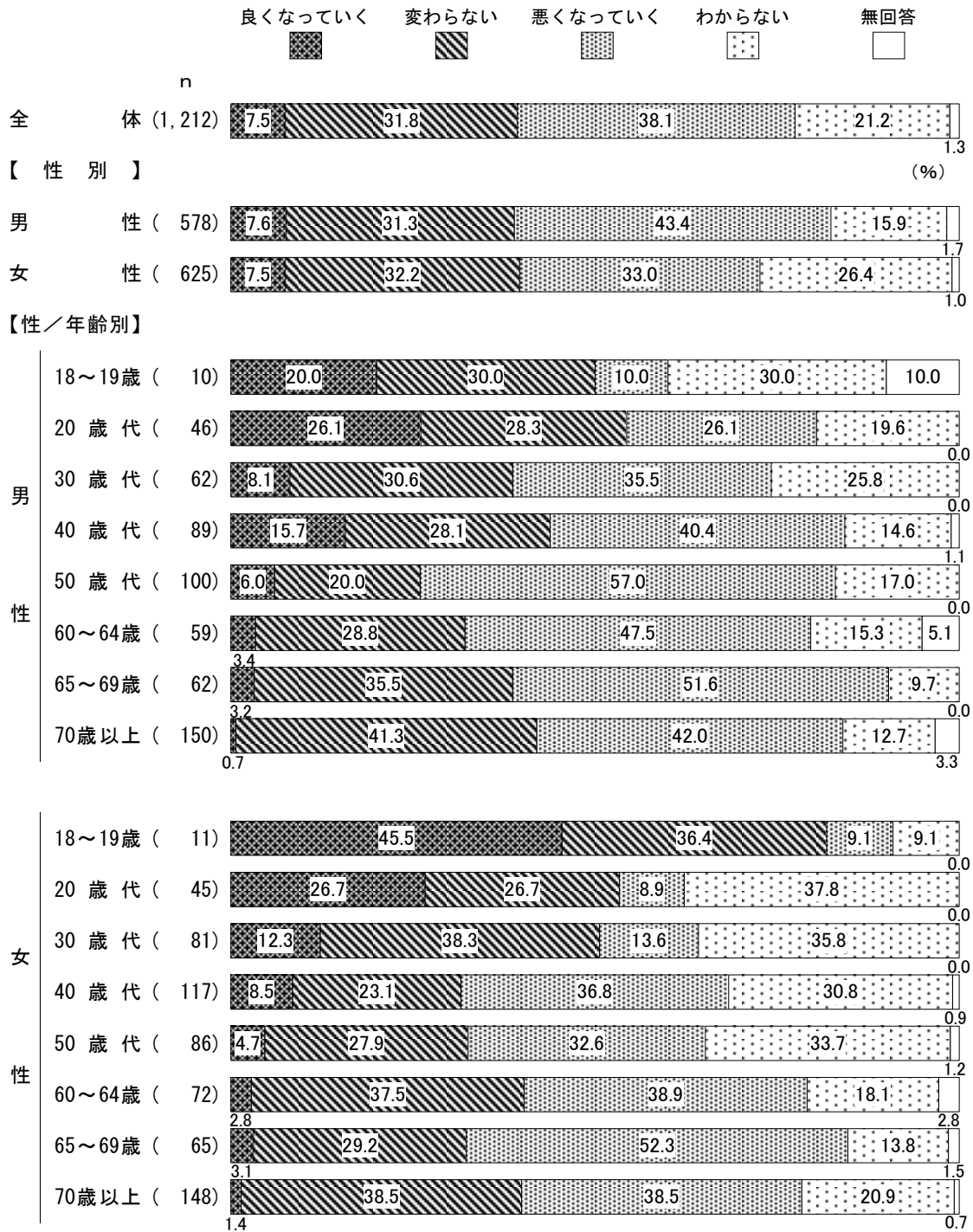
(n=1,212)

全体で見ると、「良くなっていく」(7.5%)は1割近くとなっている。「変わらない」(31.8%)は3割を超えており、「悪くなっていく」(38.1%)は4割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、「良くなっていく」が平成30(2018)年より1.3ポイント減少している。一方、「悪くなっていく」が平成30(2018)年より1.3ポイント増加している。

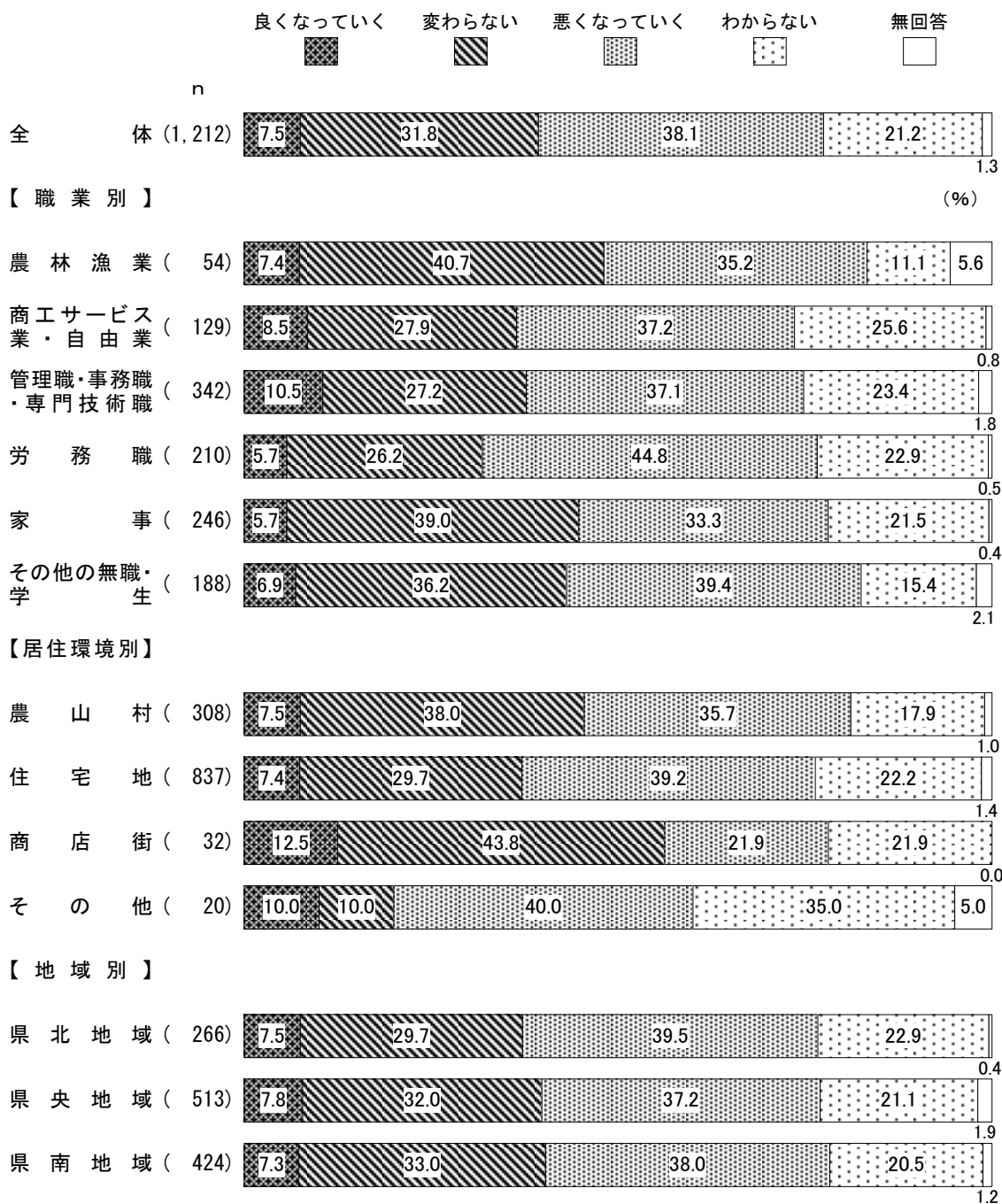
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「悪くなっていく」では〈男性〉(43.4%)が〈女性〉(33.0%)より10.4ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が26.7%、〈男性20歳代〉が26.1%と高くなっている。「変わらない」では〈男性70歳以上〉が41.3%と高くなっている。「悪くなっていく」では〈男性50歳代〉が57.0%、〈女性65～69歳〉が52.3%、〈男性65～69歳〉が51.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、「良くなっていく」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が10.5%となっている。一方、「悪くなっていく」では〈労務職〉が44.8%と高くなっている。

居住環境別で見ると、「良くなっていく」では〈商店街〉が12.5%となっている。「変わらない」では〈商店街〉が43.8%と高くなっている。

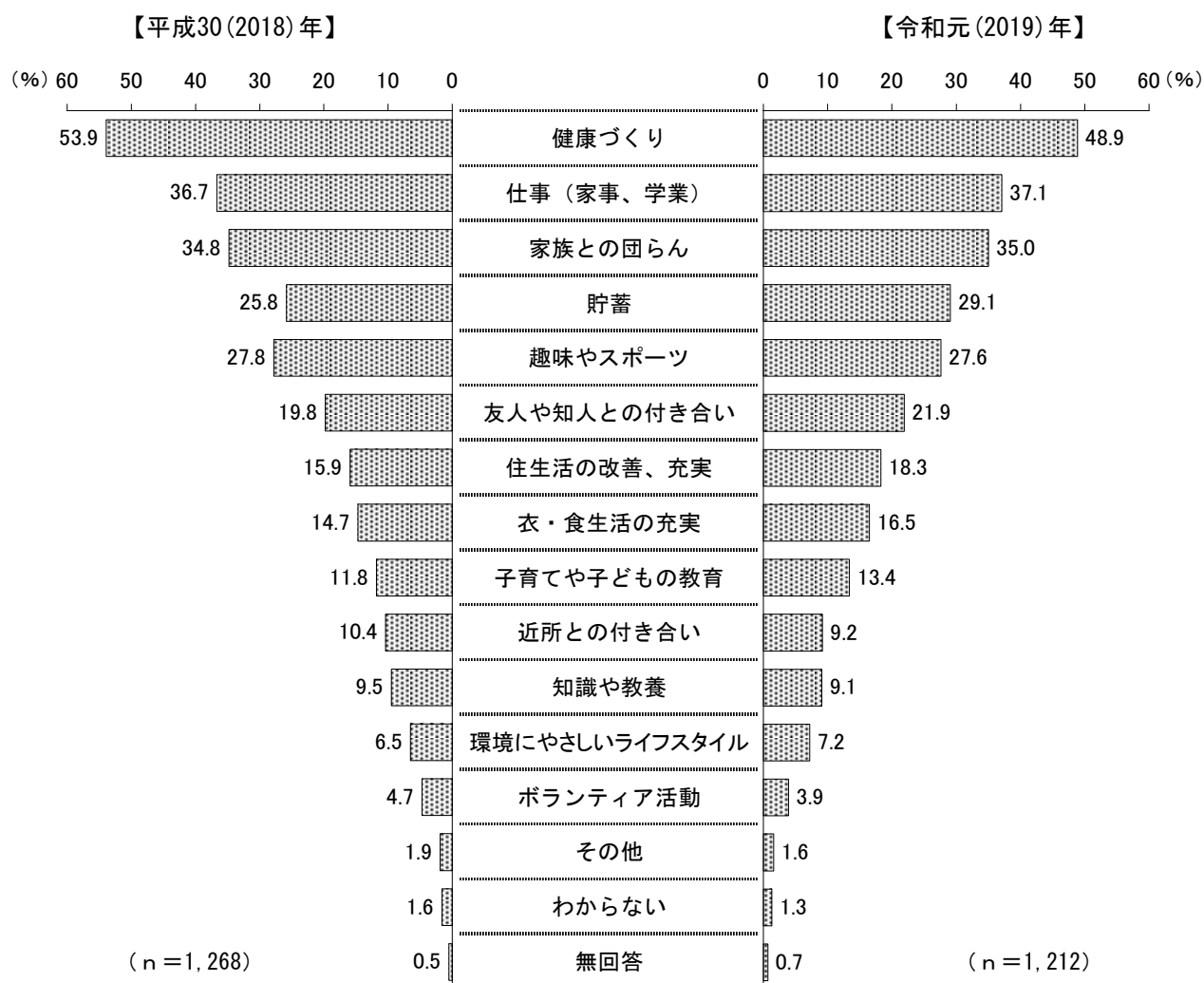
地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

(4) 今後の暮らしで力を入れる点

問4 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

[n=1,212]

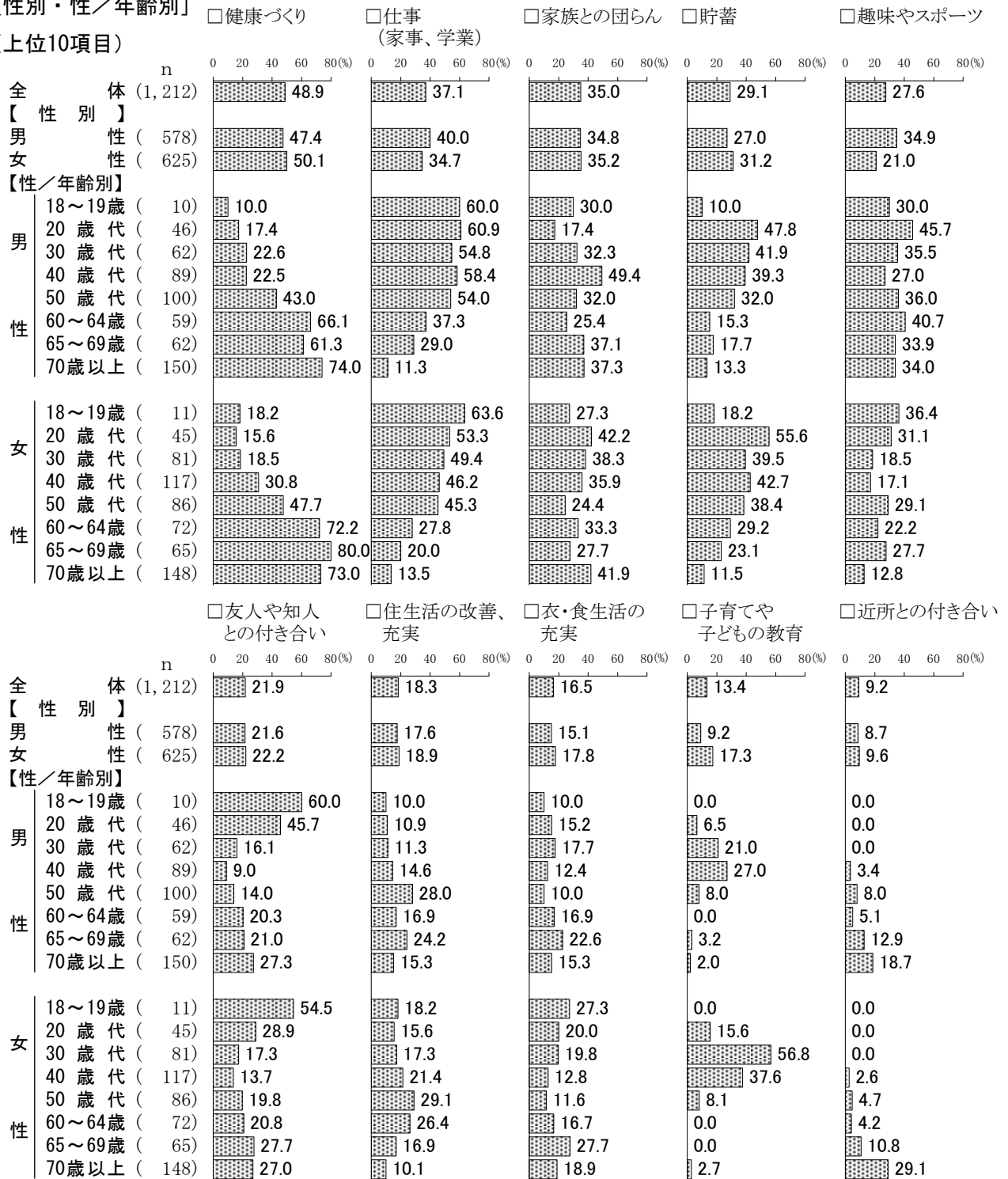
1	仕事（家事、学業）	37.1%	9	家族との団らん	35.0%
2	知識や教養	9.1	10	近所との付き合い	9.2
3	貯蓄	29.1	11	友人や知人との付き合い	21.9
4	趣味やスポーツ	27.6	12	子育てや子どもの教育	13.4
5	ボランティア活動	3.9	13	健康づくり	48.9
6	衣・食生活の充実	16.5	14	その他	1.6
7	住生活の改善、充実	18.3	15	わからない	1.3
8	環境にやさしいライフスタイル	7.2		(無回答)	0.7



全体で見ると、「健康づくり」(48.9%)が5割近くで最も高く、次いで「仕事(家事、学業)」(37.1%)、「家族との団らん」(35.0%)、「貯蓄」(29.1%)、「趣味やスポーツ」(27.6%)の順となっている。

平成30(2018)年の調査結果と比較すると、「貯蓄」が3.3ポイント増加している。一方、「健康づくり」が5.0ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]
(上位10項目)

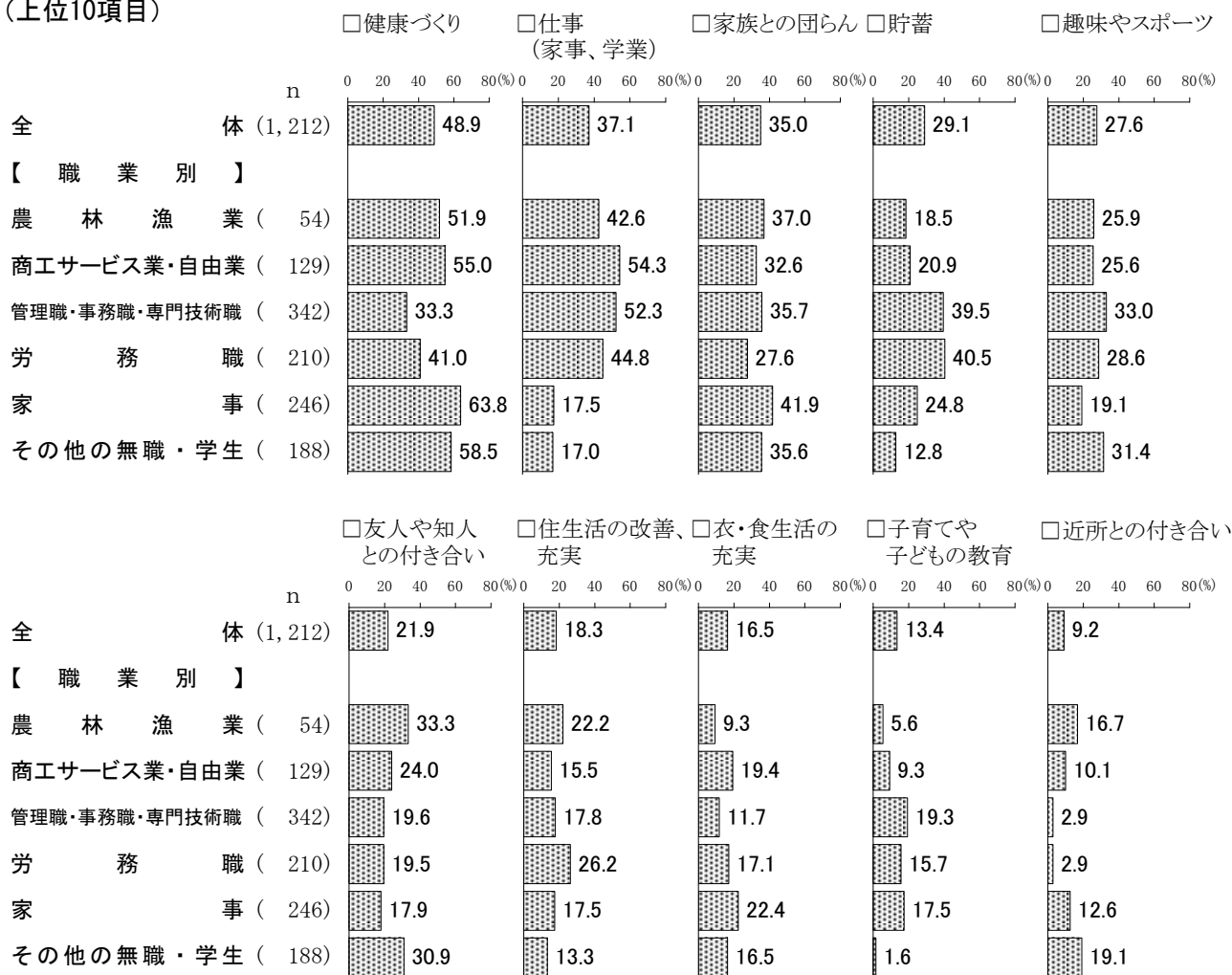


性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(34.9%)が〈女性〉(21.0%)より13.9ポイント高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性〉(17.3%)が〈男性〉(9.2%)より8.1ポイント高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性〉(40.0%)が〈女性〉(34.7%)より5.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性65~69歳〉が80.0%、〈男性70歳以上〉が74.0%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が60.9%、〈男性40歳代〉が58.4%と高くなっている。「家族との団らん」では〈男性40歳代〉が49.4%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性20歳代〉が55.6%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性20歳代〉が45.7%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が56.8%、〈女性40歳代〉が37.6%と高くなっている。

[職業別]

(上位10項目)



職業別で見ると、「健康づくり」では〈家事〉が63.8%、〈その他の無職・学生〉が58.5%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈商工サービス業・自由業〉が54.3%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.3%と高くなっている。「家族との団らん」では〈家事〉が41.9%と高くなっている。「貯蓄」では〈労務職〉が40.5%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が39.5%と高くなっている。「友人や知人との付き合い」では〈農林漁業〉が33.3%と高くなっている。